
転生した俺の平凡な日常。

KPGC10

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生した俺の平凡な日常。

【NZコード】

N5841Q

【作者名】

KPGC10

【あらすじ】

とある大学生が病死したあと転生した。とはいえたにかがあるわけでもなく。新しい人生を満喫していた。だがどうやらそこはけいおん!の世界らしく、引っ越しした先のお隣りさんは・・・

プロローグを兼ねた第1話。（前書き）

どうもはじめまして、KPGC10です。初投稿です。

今まで読み専でしたが何となく思い付いた話を投稿してみました。
ちなみに作者は音楽知識はほぼありません。（けいおん！の一次小説なのに）

更新はのんびりな駄文になるかもですがよろしくおねがいします。

プロローグを兼ねた第1話。

突然だがみなさんは転生といつものをご存知だらうか？所謂前世の記憶を持ったまま生まれ変わるといつ一次小説なんかで有名なアレである。

何故俺がこんなことを言ひはじめたかといふと、まさに今その転生という奴を自分が体験しているからである。

といつても一次小説でよくあるような神様が云々といふようなものは別にない。俺が覚えているかぎりでは、確か俺は病氣で死んだはずである。はずというのも何故かその辺の記憶は曖昧なのだ。それどころか前世についても、名前も家族関係もよく覚えていないのである。前世について覚えているのは、自分の学歴とか趣味などの自身のプロフィールとか、前世で習い覚えたことぐらいである。

まあこれについては、多少思うところはあるが悪いことではないと思う。記憶があるとはいえ前世は前世、今の俺とは違うのだ。家族のことなんて覚えていても言い方は悪いが今の俺には余計なものでしかないだろう。今の俺を生んでくれた両親が俺にとつての家族だ。

ちなみに前世で俺が死んだのは記憶によるところの時。大学4回生の時だ。就職先も決まっていたらしい。らしいというのはちょうど俺が死ぬ半年ぐらい前辺りから記憶が曖昧になっているからだ。ちなみに大学は地元の国立大学だ。といつてもその地元というのは何処なのかわからないのだが。まあそれなりに出来る子ではあつたのである。

さて、俺につこては今はこれくらいにしておけ。ああ、ちなみに”俺”といつ血口を認識したのは3歳の誕生日の時だ。両親が俺の誕生日を祝う準備をしてくれている最中だったので間違いない。それはともかく転生というなら、テンプレに則るなら某かのマンガやアニメの世界、というのが普通だろう、二次小説的に考えて。・俺は何を言っているのだろう？・まあ、それが分かったところで特にどう、とこりわけでもないのだが。

とはいえたの俺は精神年齢はともかく、ただの3歳児でしかない。調べるにも手段がほとんどないのである。まあ、新聞なんかを読む限りでは、どうやらぐぐく普通の世界であるらしい。少なくとも、魔法やら何やらのファンタジーな世界ではない。年号も平成だし。

そんなもんだから調べる手段も特に取れない以上気にしても仕方がないので、そのうちどうでもよくなっていた。

・・・そして俺が5歳になつた頃、うちの親父殿（もちろん普段は父さんと呼んでいる。）が仕事で転勤することになつた。本を読むのをやめて両親の会話を聞くと、どうやら単身赴任などではなく一家揃つてらしい。ついでにそこで夢のマイホームも購入予定のようだ。（ちなみに今はアパート暮らし）さらに話を聞くと母さんの出身地もあるそうな。今は卒業した高校の話をしているようで、学校の名前を私立桜ヶ丘高校といつらしい。・・・なんか聞き覚えのあるような・・・そうだった、確かにいおん！の舞台であつた高校の名前がそつだつたはず。とはいえた何処かにはありそうな名前だ

し考へても意味ないか。もしけいおん！の世界であつたとしても、俺には音楽の知識はあまりないし、そもそも確か女子校のはずだ。特にどうとこうともないだらう。俺は男だし。それに正直既にどうでもいいことなのでそこで考えるのを放棄して読書を再開することにした。

そして、俺達一家は新しい我が家にやつてきた。引越のどたばたも一段落し、お隣りさんに引越そばの出前かねて挨拶に行くことになった。お隣りさんは中野さんとこうらしい。呼び鈴を押してしばらくするうちに母親と同い年くらいの女性が出てきた。両親が隣に引っ越ししてきたので挨拶に来た顔を伝えると奥から男性が出てきた。どうやら夫婦のようだ。俺も子供らしく挨拶をしたあと、両親の横でおとなしくしてこむとどうやら娘さんがいるそうで母親の方が名前を呼んでいる。

「梓～、下りてらっしゃ～」

・・・梓？

プロローグを兼ねた第1話。（後書き）

ところでお隣りさんは、中野家です。

ちなみに前書きでも書いたとおり作者に音楽知識がないので基本原作と他の方々の一次小説、wikiなどが参考文献となります。また思いつきなので今後の展開もどうするかは決めてません。恋愛要素は・・・あるのか?どうしましょ。何分初めてですから。あと転生に関しては特に伏線はありません。基本のんびりとした日常のお話なので。

次回は中野家との一件と主人公の日常などを。
では、読んでくださった方に感謝をしつつ次回もよろしくお願いします。

2話（前書き）

第2話です。よろしくお願ひします。

中野梓といえば、けいおん！においてひとつ下の後輩として桜高に入学していく、いわゆるメインキャラクターの一人である。母親に名前を呼ばれて階段を下りてきた女の子の顔を確認すると年齢相当地幼いとはいえたが、その中野梓らしい。・・・とにかくここにはここはやはりけいおん！の世界で間違いないようだ。

俺がそんなことを考へてゐる間に、梓ちゃん・・・まあこれでいいか、子供なんだし・・・は俺たちに挨拶を交わしてきた。

「こんにちは、なかのあずさです。4歳こです」

と子供らしいいたどいたどしい口調で挨拶をしてきた。ビックやら俺のひとつ年下らしい。それに対して俺たち家族も自己紹介を返した。

その後は親同士がそれなりに意気投合したらしく、それなりに会話を交わした後中野家から帰宅した。

さて、そういうえば今の俺の名前を紹介するのを忘れていたのでここで紹介しよう。俺の名前は、佐伯祐という。・・・なんか似た様な漢字が並んでいるが気にしないでほしい。

ちなみに、俺が前世の記憶のようなものを持つていてことについては、すでに両親に説明済みである。・・・というか自覚した後、それほど経たないうちに母親に気づかれた、というほうが正しいが。

まあ、子供らしくない態度をとつたり（それなりに気をつけていたつもりだが）、新聞を読んだり（これもこつそり読んでいたつもりしていれば気づかれるというものである。

母親に気づかれた後、父親が帰宅した時点で家族会議を開き、俺なりに誠意を持つて説明した。前世といつても、今の俺は”佐伯祐”であると思つていて、そもそも知識や経験といったものしか受け継いでいない、といったことである。両親は最初難しい顔をして考え込んでいたが、しばらくして納得した、という顔をして俺の頭をなでてくれた。・・・正直その時は嬉しさのあまり泣きに泣いた。普通に考えて荒唐無稽な上、親としては複雑な心境であつたと思う。しかしそれも踏まえて俺を認めてくれたのだから嬉しいことこの上ないだろう。

その後は、俺にどのよつた知識があるのか、といつ話になり学力であれば最低大学生並みの学力があることを伝え、得意科目は？と聞かれたので数学と物理（大学では工学部だった）、と答えると両親は若干羨ましそうにしていた。（後で聞いたところによると一人とも理系関係で学生の頃ずいぶん苦労したらしい）

自分のことを伝え終わった後、趣味が読書であることを伝えると後日からたまに図書館に連れて行つてくれる成了った。正直読むものが新聞以外には年相応の（忘れがちだがまだ俺は当時3歳）本しかなかったので、この申し出にはありがたく飛びついた。後、英語が苦手だったということを知ると、母親が、私が教えてあげる！と言い出し（母親は結婚する前は英語の講師のバイトをしていたことがあるらしい）若干騒ぎにもなつた。・・・正直ちょっとありがたかつたのでたまにだが教えを請うこととした。ちょっと早すぎじゃね？とは思つたが。（父親は苦笑していた）

こんな感じでその後は、念願の本を得て読書に費やしたり、英語を教えてもらったり、家族と、幼児と交わすとは思えないような会話を楽しんだりして毎日を過ごしているのである。

2話（後書き）

とこうじで第2話でした。主人公改め祐は自分のことについて家族には話しています。普通に考えれば隠し通せるはずがないと思つたので。ご都合主義的なところはありますがあんまり親も納得済みです。次回からは小学生、中学生時代に入つていきます。ようやくけいおん！キャラとの絡みも出てきます。大体2、3話くらいの予定。では今回も感謝をしつつまた次話で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5841q/>

転生した俺の平凡な日常。

2011年10月8日16時52分発行